

令和8年5月29日  
第1回グリーンサーキュラー部会

# グリーンサーキュラー部会 立ち上げまでの経緯について

櫻井 翔太

北九州市環境局環境監視部産業廃棄物対策課  
指導係長

*Kitakyushu*  
**Action!**  
動かせ、未来。北九州市

---

# これまでの取組

政令指定都市で最も充実した産業廃棄物処理のポテンシャルを開花させ、  
業界と北九州市が連携し、脱炭素型資源循環に向けて踏み出す

## STEP 1

### 動静脈の情報交換 活性化

- ・廃棄物の脱炭素化に取り組む企業を認定
- ・認定企業によるコミュニティを形成
- ・動静脈の課題共有や意見交換
- ・セミナーによる全体のレベルアップ

## STEP 2

### 動静脈連携体制の 構築

- ・認定企業による動静脈ネットワークを形成
- ・動静脈連携案件を創出
- ・再生材利用率向上によりGHG削減

## STEP 3

### 脱炭素型資源循環の 実現

- ・連携案件の恒常的な創出
- ・廃棄物処理の脱炭素化に貢献

サステナブルシティへ

# 環境省モデル事業の実施

- 令和6年度は、協会北九州支部と連携し、脱炭素型資源循環の体制づくりに向けた環境省のモデル事業に取り組んだ。
- 脱炭素の視点を加えた認定制度の制度設計を行うとともに、動静脈連携に向けた緩やかなコミュニティを作るべきとの結論を得た。

## 北九州市は脱炭素型資源循環の促進に向け、産廃処理業者向け優良認定制度を一新

地域として資源循環の基盤を有するものの、その大半が中小企業で構成されており、脱炭素経営への転換が道半ばであることから、既存の産廃処理業者向け優良認定制度(インセンティブ設計)に脱炭素経営に係る要件を追加したほか、対象処理業者拡大やグレード制導入により地域一体での転換を目指しました。

### 課題と解決の方向

背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で資源循環を推進し、サーキュラーエコノミーを新たな成長モデルとしていく基盤がある             <ul style="list-style-type: none"> <li>日本最大級のリサイクル産業集積地として高度な技術を有した先進企業が多く立地</li> <li>産廃処理業許可業者数が政令市で最多</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>産廃処理業者の大半が中小企業であることもあり、カーボンニュートラル等の時代の要請対応が道半ばであることから、現状では資源循環産業ひいては市内産業全体の成長が行き詰まるおそれ</li> </ul>
解決の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>脱炭素型資源循環の推進に資する取組の実施インセンティブとして認定制度を再構築             <ul style="list-style-type: none"> <li>既存の産廃処理業者向け優良認定制度をアンケートやヒアリング結果を踏まえて一新</li> </ul> </li> <li>域内の中小企業に幅広く参画を促しながら推進</li> </ul>

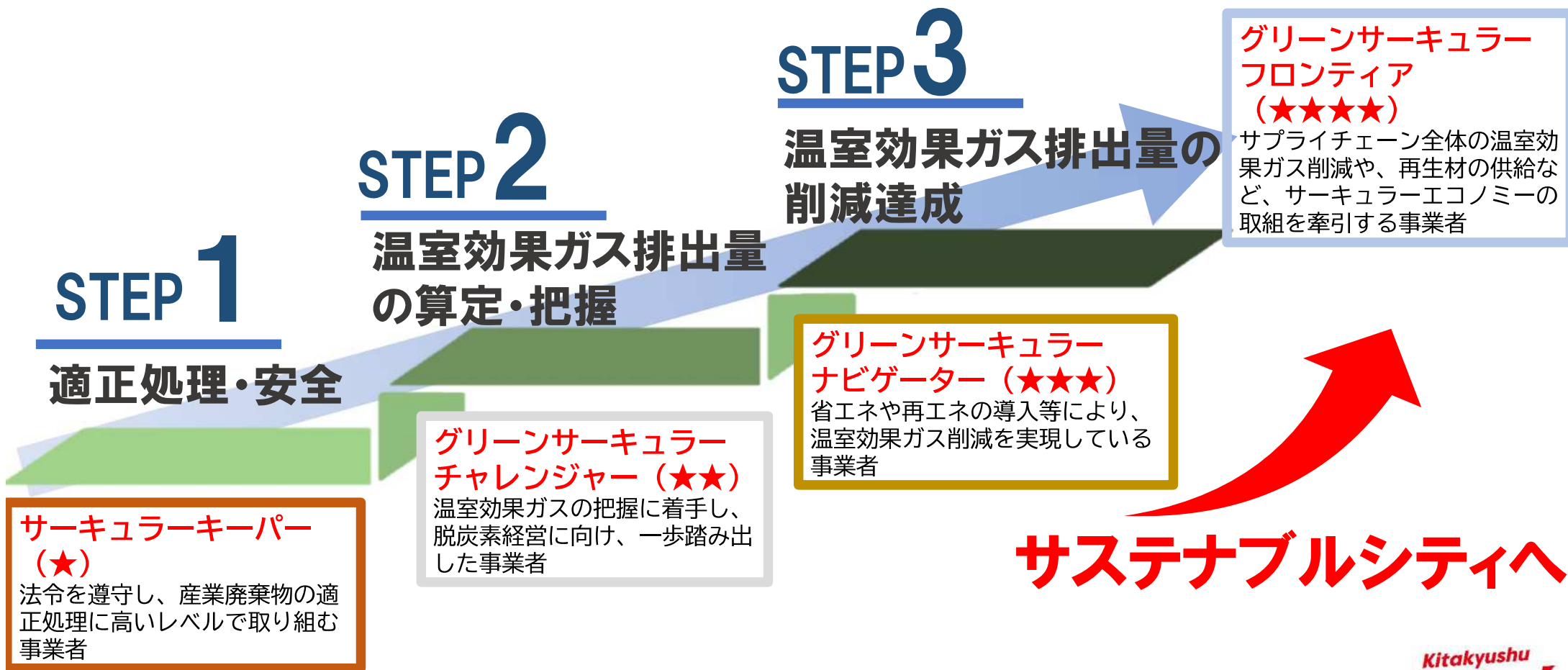
### 取組概要

	新優良認定制度の骨子		制度一新の考え方
	現行制度	新規追加	
認定要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>適正処理・安全の視点             <ul style="list-style-type: none"> <li>遵法性、労働安全衛生配慮、等</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自社の脱炭素化             <ul style="list-style-type: none"> <li>GHG排出量把握、省エネ/再エネ、等</li> </ul> </li> <li>他社の脱炭素化             <ul style="list-style-type: none"> <li>自社再資源化技術の発信、排出事業者への助言指導、再生材利用に向けた技術開発、等</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産廃処理業者として目指すべき取組に脱炭素(経営)の視点が必要不可欠であることを明確化</li> </ul>
認定対象事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業廃棄物排出/処分事業者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業廃棄物収集運搬事業者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>脱炭素型資源循環の一翼を担う輸送部分の貢献についても重要視</li> </ul>
認定の態様	<ul style="list-style-type: none"> <li>基準への適合で認定/不認定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>要件充足に応じて段階(グレード)設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>脱炭素経営に未着手/着手済の事業者それぞれにインセンティブ付与</li> </ul>

出典: 令和6年度地域ぐるみでの支援体制構築ガイドブック(環境省)

# 北九州グリーンサーキュラー認定制度の創設

➤ 令和7年度は、脱炭素の視点を取り入れた新認定制度の制度設計、創設を行った。

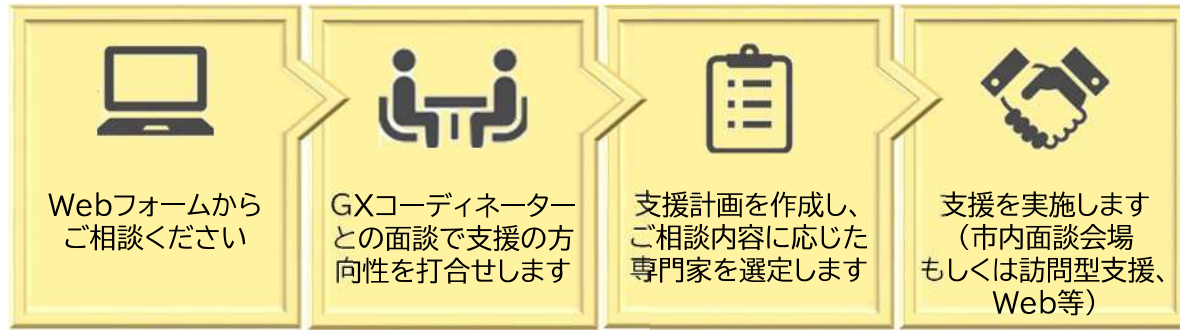


---

# 脱炭素型資源循環に向けた取組

# 専門家派遣・伴走支援

## GXの知識・技術を有する「専門家」による 伴走支援を実施



対象  
北九州市域  
の企業

相談  
無料

3回<sup>まで</sup>

2026年3月まで  
**33**件  
相談受付対応

- 算定したCO2排出量の妥当性評価
  - 工場の生産ライン見直し
  - GX関連補助金活用支援、SBT認証取得支援
  - 協業支援企業発掘
- 等

### 登録専門家(16社)

#### 省エネ・再エネ

- ・九州電力
- ・西部ガス
- ・エネルギーマネジメント協会

#### 生産ライン

- ・デンソー九州
- ・ドーワテクノス

#### 最新動向

- ・地球環境戦略研究機関(IGES)

#### ロードマップ策定

- ・タンソーマンGX
- ・NIRAS

#### 環境技術

- ・環境テクノス
- ・日本電通

#### IT導入

- ・メンバーズ
- ・フォーバル
- ・アルファコミュニケーションズ
- ・アップルツリー

#### 金融関連

- ・三菱UFJ銀行
- ・東京海上日動火災保険

(2026年3月時点)

## 専門家による課題解決に向けた伴走支援

## 相談窓口での協議内容

---

### <問題点>

- 脱炭素経営に着手している事業者が少ない
- 動静脈連携、静脈間連携が積極的に行われていない

### <問題の要因と対策案>

#### ➤ 方法・手段の未習得

→ 産業廃棄物の適正処理の知識と思考

「収集運搬→中間処理→最終処分(＋リサイクル)」から

脱炭素型資源循環時代に必要な知識と思考

「適正処理＋脱炭素＋資源循環」にアップデート

#### ➤ 人手不足

→ 自社におけるGHG排出量の算定、削減計画を策定し、組織やチームを先導し、行動に移せる脱炭素人材の育成

#### ➤ 関係者の接点不足

→ 脱炭素や資源循環について活発な意見交換ができる有意義な場の提供(交流会等の開催)

👉 これらの問題解決を図るため、部会の創設を検討

## 相談窓口での協議内容

- 相談窓口では、協会員のみなさまが脱炭素に取り組むための支援体制として「部会」を創設することを検討
- 協会員のみなさまのグリーンサーキュラー認定取得を支援することにより脱炭素経営に踏み出してもらうことを想定

### <第1回部会検討事項>

項目	内容
目的	会員間の情報共有と相互学習を通じ、認定制度の裾野を広げるとともに、認定事業者のステップアップを促す。これを以て、脱炭素経営企業を増やすとともに、北九州市のGX実現に貢献する。
対象	公益社団法人福岡県産業資源循環協会の会員のうち、部会への参加を希望する企業
テーマ	グリーンサーキュラーチャレンジャーになろう！ (脱炭素経営のはじめの一步、見える化から始めよう！)
開催	3か月以内に終了(その後は別のテーマで) 対面 いつ頃開催？
体制	事務局:協会北九州支部様 会員:参加希望者様(●社程度)
成果	希望する会員企業が、温室効果ガス排出量の見える化ができて、ステップアップする。

 みなさまの取組状況、今後のご意向を伺うためアンケート調査を実施

## アンケート結果

- 令和8年1月から約1か月にわたりアンケートを実施した。
- 約8割のみなさまが、新認定制度を認知していることがわかった。

### <概要>

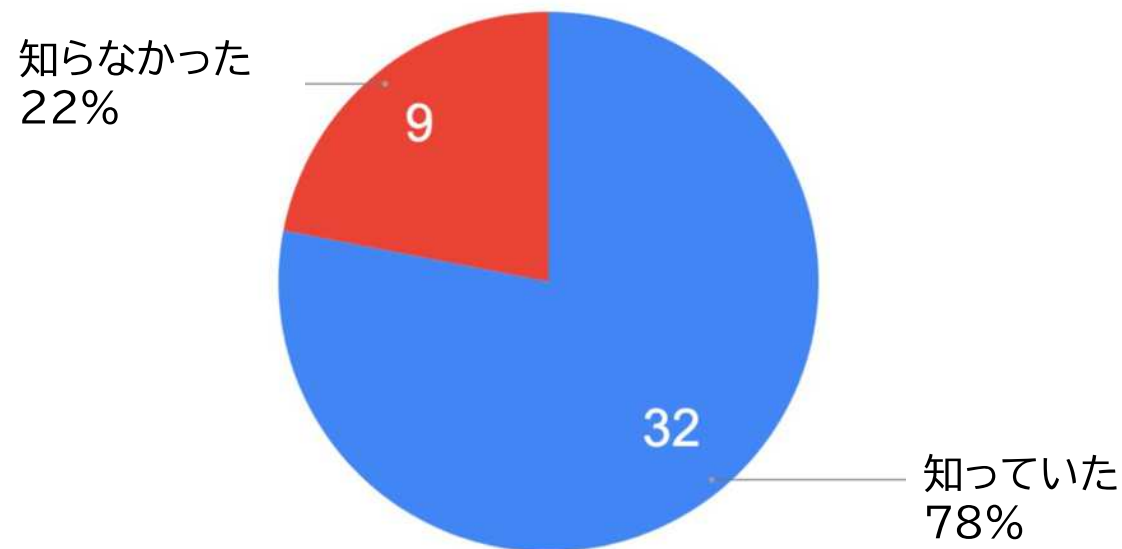
実施期間：令和8年1月15日～2月5日

対象：北九州支部会員

回答社：41社

回答率：29.7%（市内業者）

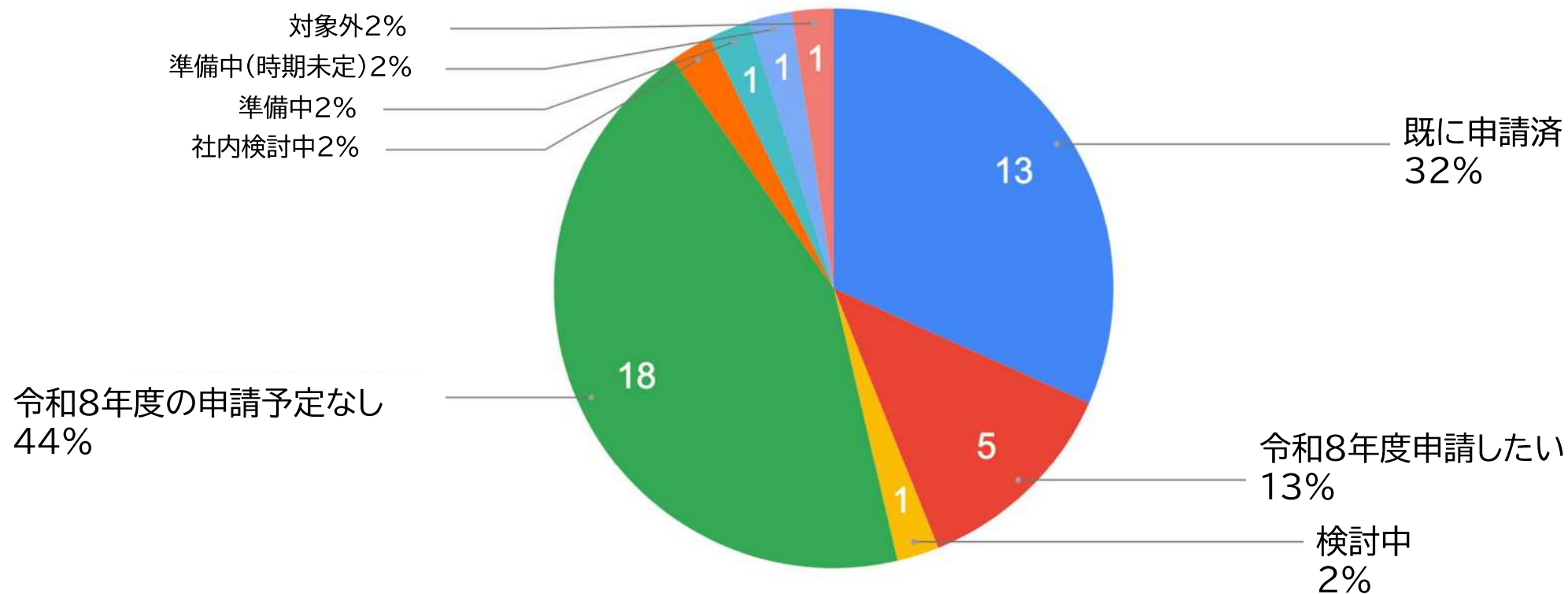
【新認定制度を知っていますか？】



## アンケート結果

- 約3割がすでに認定を取得。今年度申請意向のある会員が13%存在
- 取得済と前向きに検討している事業者で半数を超える

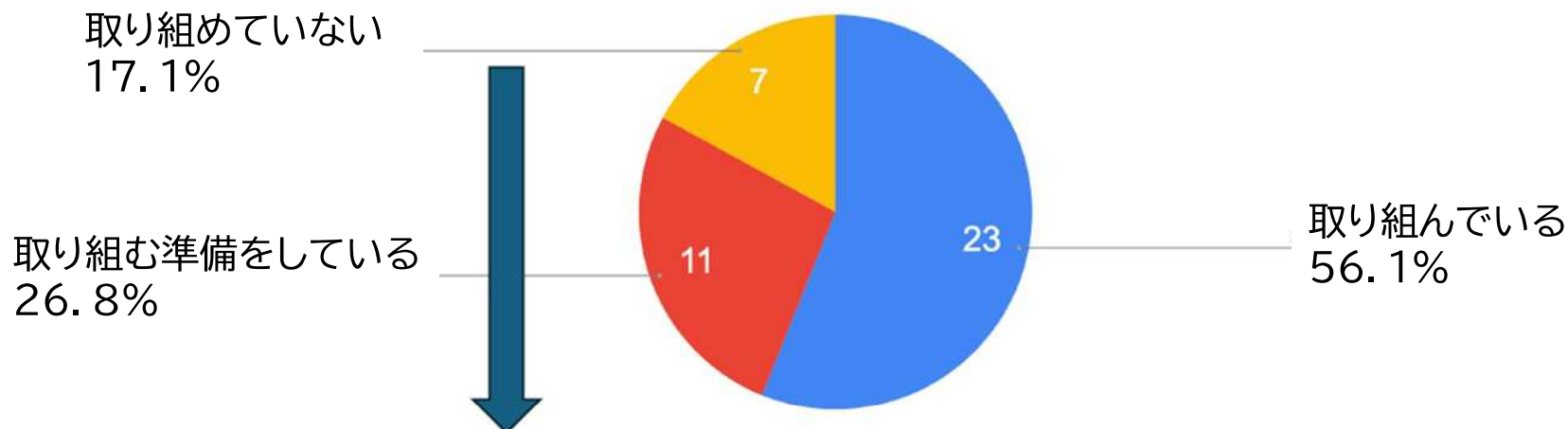
【新認定制度の申請に関する今後のご意向】



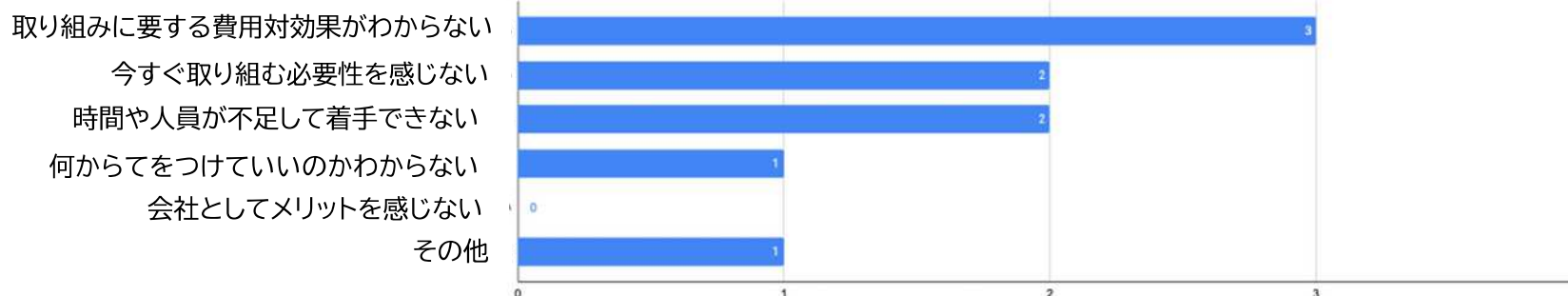
# アンケート結果

- 半数を超える会員がすでに脱炭素に取り組んでいる。
- 取り組めていない理由は、費用対効果、取り組む意義、人手不足など。

【脱炭素経営の取組状況】



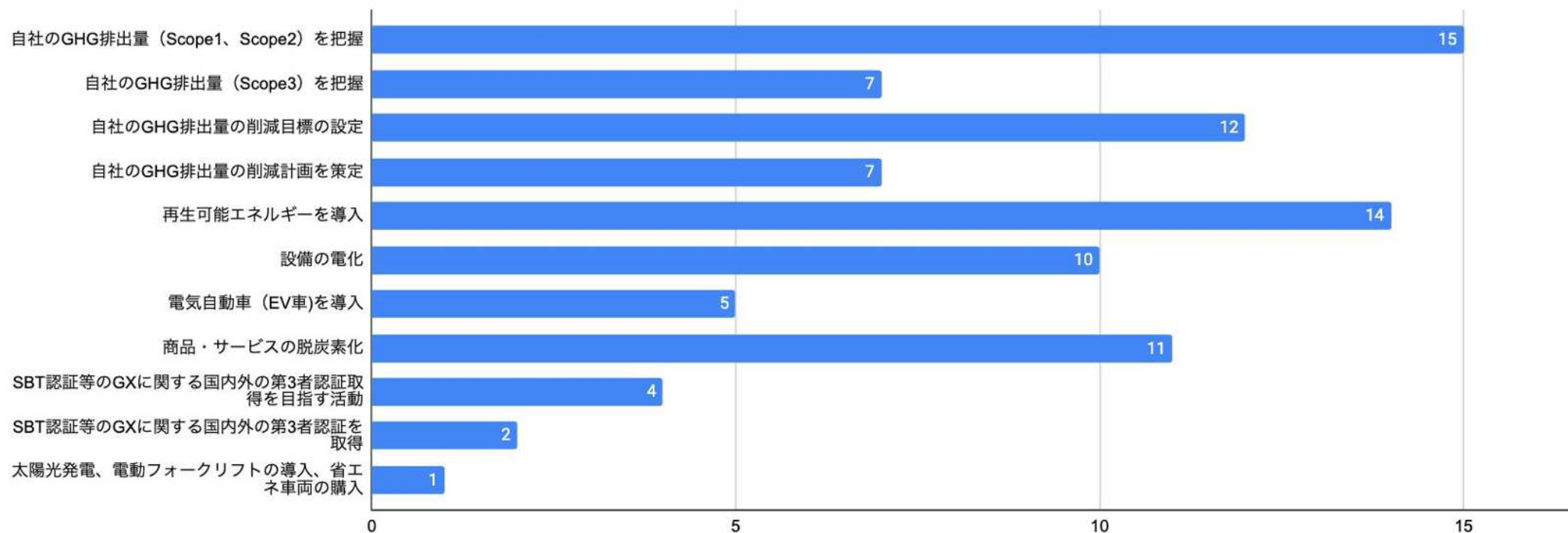
取り組めていない理由（課題）（複数選択可）



# アンケート結果

➤ 温室効果ガス(GHG)の把握や再エネ導入などを中心に脱炭素の取組が進んでいる。

【取り組んでいると回答した企業の取組内容】



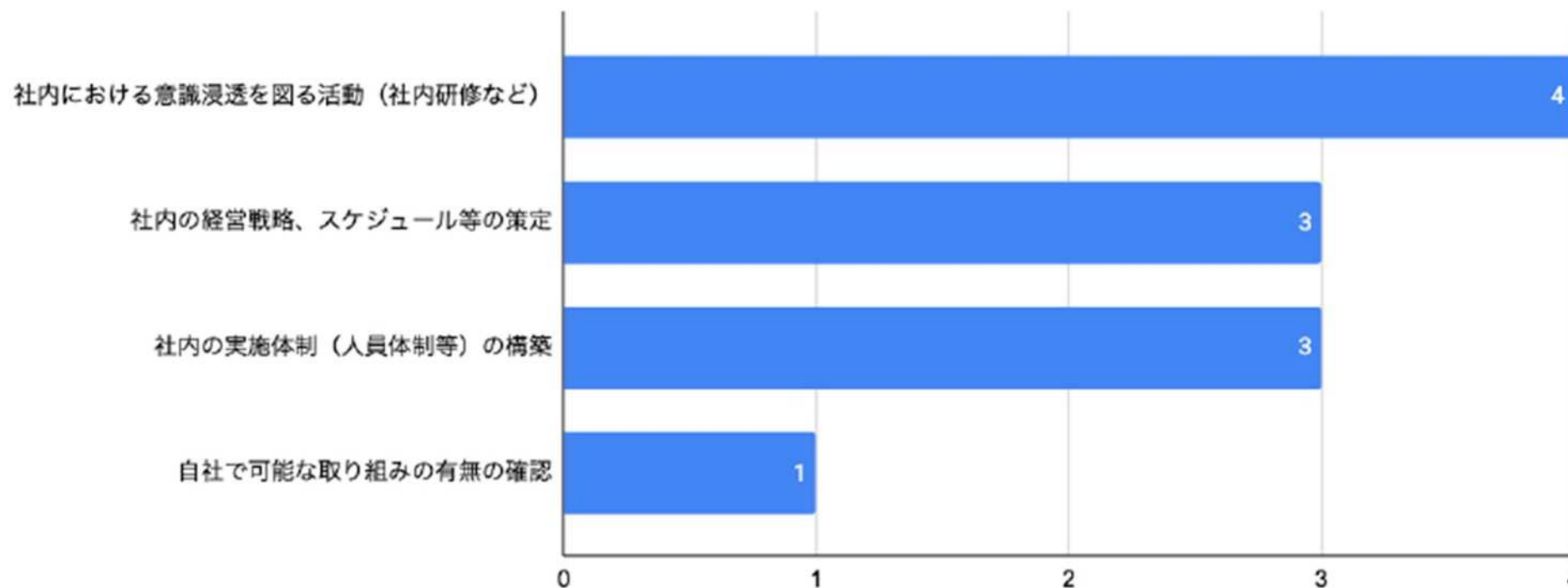
☞ Scope3の把握やSBTの取得など、先進的な取組を行う会員も存在

## アンケート結果

➤ 脱炭素経営に向けた準備として、社内研修や戦略策定、体制構築の取組が進んでいる。

【準備していると回答した企業の取組内容】

現在、実施できていること（複数選択可）

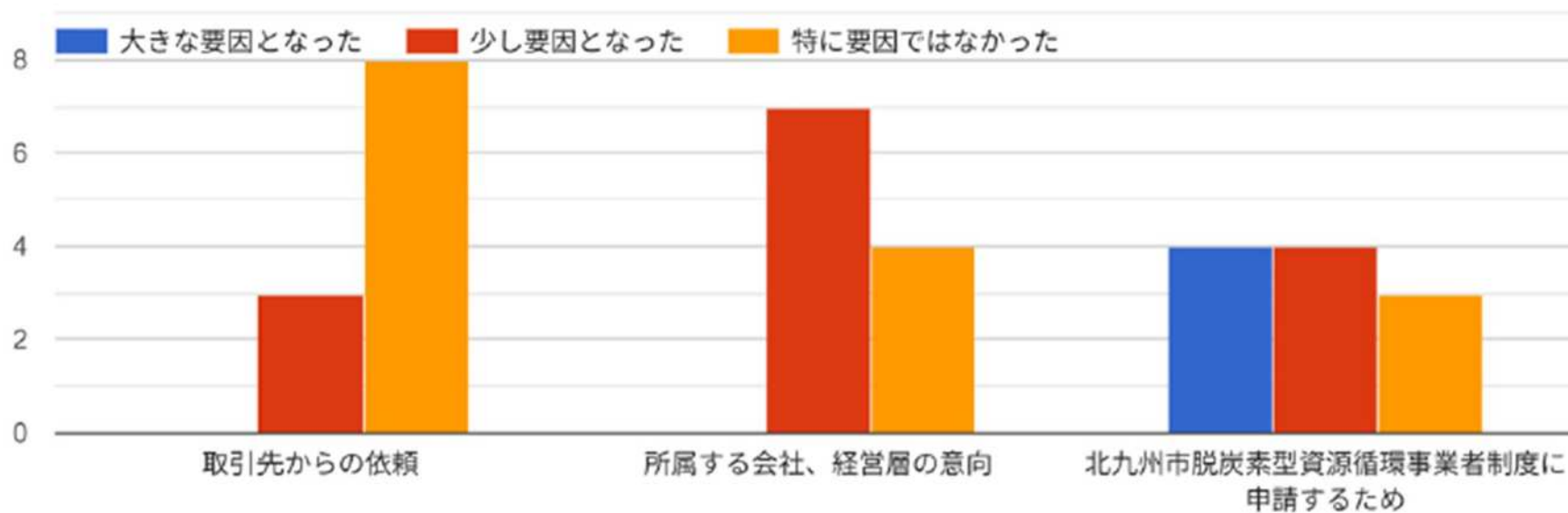


## アンケート結果

➤ 脱炭素経営に向けた準備として、社内研修や戦略策定、体制構築の取組が進んでいる。

### 【取組み準備を始めた要因】

取組み準備を始めた要因について、各項目毎にいずれかに☑を入れてください。



☞ 取引先の要請に加え、新認定制度への申請が、きっかけとなっている。

# アンケート結果

## 【部会への参加希望について】

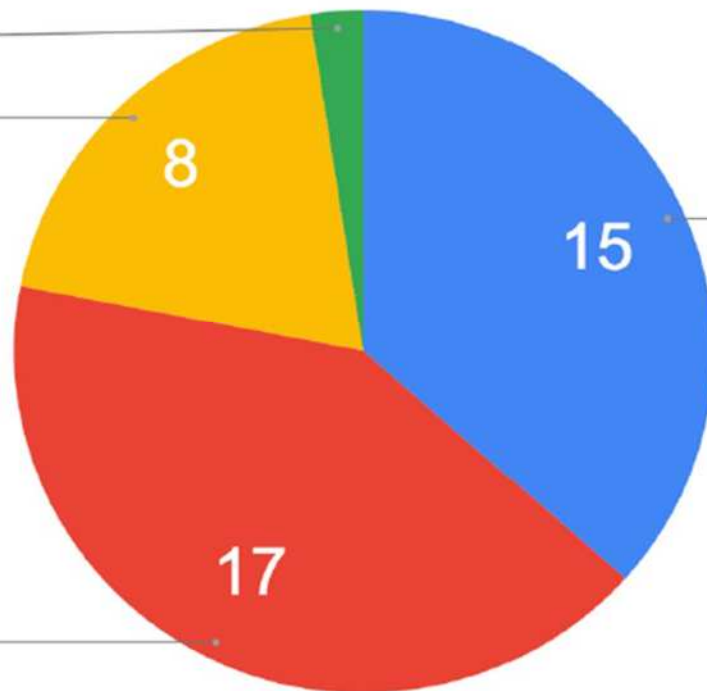
あなたが選択した活動及び開催頻度で部会が実施される場合、部会に参加しますか。

その他  
2.4%

参加しないと思う  
19.5%

話を聞いてみたい  
41.5%

参加したいと思っている  
36.6%




👉 約8割のみなさまが参加に興味を示していることがわかった。

## 部会の方向性

- 北九州GXコンソーシアムに「グリーンサーキュラー部会」を設立する。
- 北九州支部が事務局となり、北九州市、IGES、FAISが取組を支援する。

### 【アンケートの結論】

- ・すでに取り組んでいる企業の中には、Scope3の把握など、先進的な取組が見られる。
- ・認定をきっかけとして、脱炭素経営に乗り出す企業が相当数存在



## グリーンサーキュラー部会

### 【取組1】

- 認定取得支援
  - ・脱炭素経営に踏み出す企業の認定取得を支援
  - ・認定取得企業のグレードアップを支援

### 【取組2】

- 先進事例共有・動静脈連携
  - ・フロンティア企業を中心に課題共有・問題解決
  - ・排出事業者との情報交換・動静脈連携の検討

 本日5月29日(金)にキックオフミーティング開催を迎えることができました！！

## 新たな都市像の実現に向けて

- ▶ 北九州市は、持続可能な都市の新たな方向性として、「Next Horizon Sustainable City」(ネクストホライズン・サステナブルシティ)という新たな都市像を発表した。
- ▶ 協会との脱炭素型資源循環に向けた取組は、新たな都市像に合致しており、世界をリードする、サステナブルシティのネクストホライズン「次なる地平線」につながるものである。



出典:北九州市ホームページ  
([https://www.city.kitakyushu.lg.jp/contents/324\\_00003.html](https://www.city.kitakyushu.lg.jp/contents/324_00003.html))

引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

*Kitakyushu*  
**Action!**

**動かせ、未来。北九州市**